

[2 抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 令和4年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>	
1	事業名 地域高齢者の食支援のための多職種連携
2	申請者名 杉並区歯科医師会 専務理事 渡辺政治
3	実施組織 一般社団法人 東京都杉並区歯科医師会
4	<p>事業の概要</p> <p>高齢者にとって、食えることは生活そのものに密接に関連する。コロナ禍での自粛生活に伴い、地域住民のフレイル・オーラルフレイルへの興味関心も高まってきており、歯科への期待も大きくなってきている。そこでは、歯科医療関係者は口腔内にとどまらず、包括的な視点で地域住民と向き合い、他の専門職と同じ目標に向かい調和を取りながらチームで地域を支えていくことが求められてきている。</p> <p>杉並区歯科医師会では、高齢者の食支援を目的とした「多職種連携事業」として活動することを決定した。さらに、他の職種の業務を理解し、相手の立場を考えながら、専門用語ではなく共通用語を使用できるようにするとともに、令和3年から医師会を中心とした ICT を利用したオンライン上での情報共有の活用も始まり、歯科医師会でもその一員となるべく活動を開始している。</p>
5	<p>事業の内容</p> <p>(1) 多職種連携部会の設立 5回の部会の開催、講師を招いての勉強会 (2) 多職種連携 講演会・研修会 講演会、シンポジウムの開催(各1回) 医師会主催のオンライン会議に参加 行政主催の研修会に参加 介護関係者の勉強会開催 (3) 区民向け 講演会・研修会 杉並区歯科医師会主催、区民健康講座の開催 杉並区自主グループ主催講演会に参加 (4) 医歯薬連携の会 設立 医師会、歯科医師会、薬剤師会の連携にかかわる委員会による連携の会を設立 (5) バイタルリンク「歯科の部屋」開設 バイタルリンク(情報共有クラウドサービス)の中で、多職種がいつでも、だれでも歯科に関することの相談ができる窓口を開設</p>
6	<p>実施後の評価(今後の課題)</p> <p>。講演会では、オンライン開催は時間、場所の自由がきくことで有用であったが、事例検討会、シンポジウムなどグループワークを含む会議では意思疎通が難しく、対面での実施が有利でと感じられた。</p> <p>今後の課題として、①対面での事業再開 ②多職種間の信頼関係の確立 ③連携推進を円滑にするための、ICT活用の推進、共通言語の活用 ④医歯薬、医療職の連携強化 ⑤介護予防(オーラルフレイル対策)の強化 ⑥歯科医師会内部での、レベルアップがあげられる。</p>